

## 生きがいにつながる税金

秋田市立桜中学校3年 近藤 晴香

「年金をもらいながら、税金も払っているんだよ。」

冬の日、祖父と祖母がパソコンの入力をしながら笑って言いました。

祖父母は、農業を営んでいます。年齢を考えて、面積を減らしているようですが、年金受給年齢を超えた今でも十ヘクタール（東京ドームの二・五倍）の稲作をしています。そして、冬の農閑期には、パソコンで青色申告の書類を作って税理士さんに提出し納税しているそうです。また、祖母も、専従者給与を受け取り、源泉所得税を納税しているのだそうです。祖母が一連の税金について教えてくれましたが、難しい税金用語が多く、正直私には理解できない部分もあったのですが、高齢でも収入があれば納税の義務があって、祖父母も納税していることを知り驚きました。

年金をもらえる年齢で、なぜまだ働くのだろうと疑問に思い祖父に聞いてみると、「何もしないでいたらボケてしまう」と笑いながら言いましたが、それから、「年を取ると、明日やらなくちゃいけないことがあるというだけでも楽しいんだよ。働くためには、健康でなくてははいけない。だから働くために健康に気をつける。健康でいつまでも働くことが生きがいだ。」と、いつもとは違う少し真面目な口調で言いました。

「孫達が学校で勉強できるのも税金、冬にこんなところまで除雪車が来てくれるのも税金、絶対そうはなりたくないけれど、病気やけがをしたら救急車もお願いしなくてはならないかもしれないしな。」そう言って祖父は席を立ちました。

私は、身近な消費税などしか税金というものを考えたことはなかったけれど、祖父の話聞いて、税金について改めて考えさせられました。普段、当たり前と思って気がつかないことにも税金が使われていて、そして、その税金というのは、たくさんの人や企業からの納税で成り立っているということ、納税者の中には、祖父母のように、もう働かなくてもいい年齢でも、生きがいと思って働いて、納税しているということ。

学生の私たちが、社会人となって収入を得て、納税者になった時には、今まで多くの人達の納税によって過ごしてきたことに感謝して、納税の義務を果たし社会に貢献していけるよう、将来のために今できることを頑張っていこうと思いました。

離れて暮らしているのに、祖父母とは時々しか会えませんが、会うたびに小さくなっていく祖父母の背中が、税金の話聞いて、なぜかいつもより大きく見えました。